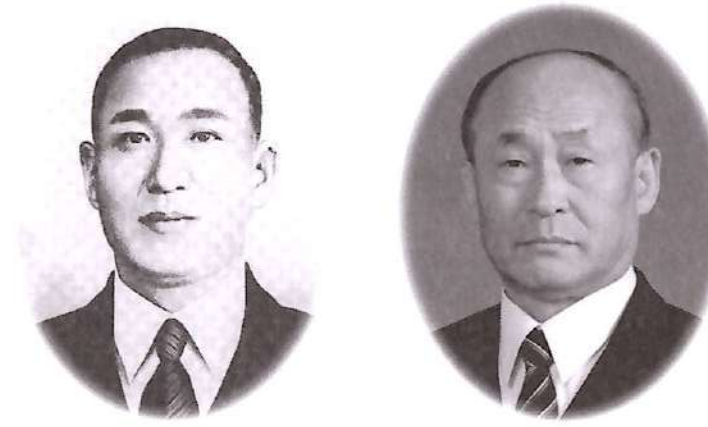


株式会社 樋口新聞舗のあゆみ

- 昭和13年6月1日 初代・樋口政三、五泉市駅前1の現在地で新聞販売業開始
東京日日新聞100部余からのスタート
- 昭和14年12月 新潟新聞200部を合わせて合売店に
- 昭和16年12月8日 太平洋戦争が勃発
戦時下、言論の国家統制強化で新聞共販制度が始まる
- 昭和17年5月 東京日日、朝日、読売、報知、中外商業、都、小国民、新潟日日。計1700部
- 昭和17年11月1日 日本新聞配給会発足。新潟日日新聞、新潟県中央新聞、上越新聞の3紙を統合して新潟日報創刊
- 昭和20年4月16日 五泉大火。799戸焼く。店舗も住宅も類焼
- 昭和20年5月20日 樋口政三の長男・樋口政文が出征。東京・赤坂の近衛歩兵三連隊へ入隊
- 昭和20年8月15日 太平洋戦争終わる
- 昭和20年9月10日 GHQが「言論の自由及び新聞の自由に関する覚書」を発表、言論、新聞の自由の時代到来
- 昭和21年12月 新聞共販連盟が発足
- 昭和22年12月 店舗兼住宅を再建
- 昭和23年1月8日 創業者・樋口政三死去。46歳
樋口政文、二代目代表に就任。22歳
- 昭和23年11月 新聞購読調整
- 昭和26年11月 新聞販売、自由競争の時代に
- 昭和27年～29年 各紙、専売を開始
新潟日報、毎日新聞、読売新聞、朝日新聞
- 昭和29年 毎日系店主からの要請もあり、幹部3人を専売激戦地の東京、神奈川、埼玉に送り込む
- 昭和30年4月15日 日本経済新聞社の要請で、東京・目白の日本経済新聞目白専売所を引き受ける。
五泉市以外では最初の経営。2年後に撤退
- 昭和30年11月3日 五泉市民新聞社設立、五泉市民新聞を創刊
- 昭和31年11月 五泉において朝日新聞が専売開始。持ち紙を引き渡す



初代 樋口政三 二代 樋口政文



昭和20年 大火後に建てた木造の旧店舗。左は書店



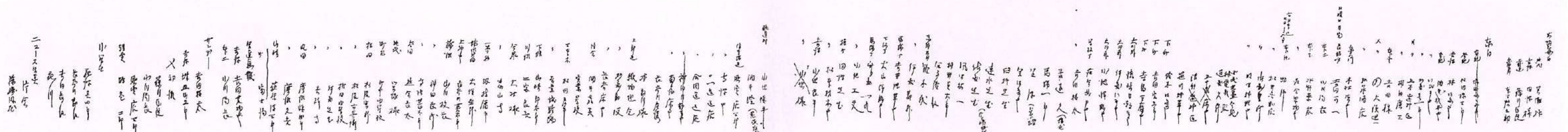
昭和27年6月 専売戦に突入したころ、激励のため来泉した新潟日報のニュースカー



昭和39年 東京オリンピックを視察する販売店主たち中ほど、前を向いているのが樋口政文



昭和44年4月に完成した樋口新聞舗の新社屋



昭和13年の引き継ぎ当時の読者名簿